

CASE 01

NPO法人チャリティーサンタ 熊本支部の場合

高見一矢さん / 秋本麻衣さん / 豊田佑弥さん

活動内容や団体について詳しく教えて!

熊本支部ができたのは2016年。本部(東京)から声をかけられた当時の代表が、地震で被災した熊本を元気づけたいと立ち上げました。「子ども達に愛された記憶を残す」というコンセプトのもと、12月24日クリスマスイブに、応募があった家庭に訪問して子ども達にプレゼントを渡す活動を行っています。他にも熊本市や天草市でのサンタクロースパレードや、シーズン外には子ども・親子を対象としたイベントを他団体とのコラボで開催しています。



詳細や問い合わせはInstagramから。

毎年10月からは訪問する家庭の募集も開始します!



団体&活動のコンセプトは「参加するだけで楽しい」「子どもも私たちも楽しく」です。そんな楽しい活動の繰り返しの中で、自分達自身の成長にも繋げていきたいですね。

活動における「課題」は?

チャリティーサンタとして活動する上で、必ず守らなくてはならない条件が「活動を継続すること」です。サンタクロースとの体験を大切に思い、毎年依頼してくれる家庭が多くあり、そういった家庭の子ども達の夢を壊さないために、経済的にも安定して活動を続けられる組織運営が必要です。組織を継続し、たくさん子ども達に思い出を届けることはもちろん、活動の幅を広げ応援して下さる方を増やすためにも支部独自の活動も模索していかなければなりません。



「サンタクロース講習」として、サンタクロースの心構え、実技実演指導なども行います。この冬、あなたもサンタさんになってみませんか?

あいぽーとに相談だ!



あいぽーとセンター長 清田 光治

活動のニーズを把握!

団体の活動を継続し安定したものにするには、学生のみならず多くの団体の課題となっています。その中でも、自分達の団体に賛同してもらい、協力いただく「人」の力は、活動を継続していくためには必要不可欠なものです。自分達の活動を取り巻く「ニーズ」を把握する意味でも、プレゼントを渡した子ども達、保護者の方の声をヒアリングしてみるのはいかがでしょうか?

助成金や寄附金の活用も

あいぽーとが窓口となっている「くまもと・わくわく基金」をはじめ、団体の規模や活動内容に応じて活用できる助成金や寄附金があるかもしれません。まずは自分達の事業についてしっかりと計画し助成金を活用することも検討しましょう。ただし、助成金は事業のみの利用となります。団体の運営等などは寄附を視野に入れて資金を確保しましょう。助成金と寄附、どちらも言えますが、「自分達の活動を知ってもらうこと」が大事ですよ。



どんな市民活動・ボランティア活動にも課題はつきもの。それは経験豊富なベテラン団体でも、若手を中心とした団体でも同様です。

今回はボランティア活動に取り組む3つの学生団体を紹介。それぞれの団体が抱える、学生ならではの、若い世代ならではの課題や悩みと、それに向き合う彼らの挑戦を追いました。

ご紹介する団体はコチラ!

九州がっ祭
学生実行委員会
課題: 活動資金の調達



九州各地のお祭りを熊本に集めて、一つのお祭りを作ろうと発足したのが、「九州がっ祭」です。熊本市内の学生を中心に実行委員会を組織し、「大好きな熊本を元気づけたい!」という想いで祭りを運営しています。

熊本大学学生災害復旧支援団体
「熊助組」
課題: 後継者育成



熊本大学工学部公認の災害ボランティアサークルです。災害時に現地に行って復旧作業のお手伝いをするのがメインの活動。平常時は防災についての勉強会や防災訓練に参加したり、防災関連のイベントのお手伝いに参加しています。

NPO法人
チャリティーサンタ 熊本支部
課題: 活動の継続



サンタを通じて子ども達に思い出を届ける活動とその際に集めたチャリティー金で様々な支援活動を行う「NPO法人チャリティーサンタ」。現在30都道府県42支部で様々な人が活動しています。熊本支部は学生中心で運営しています。

それぞれ特徴的な活動を行っていますね。同様に、各団体が抱える悩み・課題もそれぞれ。私たちあいぽーとでも、市民活動の支援を行う機関として有効なアドバイスができないか、何かサポートできることがないか、詳しく話を聞いて一緒に考えてみましょう!